

国立大学法人 長岡技術科学大学

平成25年度第2回(第56回) 経営協議会議事要旨

日時	平成25年6月24日(月) 13時30分～15時30分
場所	ホテルニューオータニ長岡3階【うめ】
出席者	新原議長、東委員、池田委員、縣委員、岡田委員、神野委員、宮下委員、山崎委員、武藤委員、高田委員、宮崎委員、中出委員、斎藤委員(議事の表決の委任による出席者:小畑委員、梶岡委員、森委員)
陪席者	平山監事、滝上監事、伊藤附属図書館長(原田客員教授)
事務局	総務部長、企画・広報室長、総務課長、人事・労務室長、財務課長、総務課副課長、財務課副課長、企画・評価係長、財務課予算係長、財務課専門職員(決算担当)、財務課予算係員、総務課総務係長、総務課総務係主任、

議事に先立ち、議長から江口委員が諸般の事情により経営協議会委員を辞任し、後任として、平成25年6月12日付けで、縣 良二 株式会社日本工業新聞社 代表取締役社長を任命した旨の報告があった。引き続き、縣委員から挨拶があった。次に本学の附属図書館長が4月1日付けで小松教授から伊藤教授に交代した旨の報告があり、その後、伊藤附属図書館長から挨拶があった。

続いて、第55回議事要旨(案)について説明があり、案のとおり承認した。

審議事項

1. 平成24事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について

武藤委員より、資料1に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

主な質疑応答は、以下のとおり

- 報告書の序論で就職後3年以内の離職率が低いと記載されているが、今の時代は、学生のベンチャーをどんどん出すという風潮もあり、離職率が高いことはよくないが、二面性がある。中長期的に考えたときには、あまり離職率のことは触れられない方がよいのではないか。
- 本学においても学生時代に最近3人ぐらいがベンチャーを立ち上げており、積極的な学生もいることから、この状況を踏まえて修正をしたい。
- 原子力システム安全工学専攻について、現在の応募、取組み等の状況は、どのようになっているか。
- 応募状況は、初年度 定員20名に対して16名、2年目は定員20名に対して12名となっている。この専攻を設置する際には、高専、高専の専攻科、本学の3年生にアンケートをとり、どこも共通して十数%の学生が原子力分野に進学したいとする結果が出ていたが、日本の原子力発電が2基のみの稼働となり、あとは停止してしまった状況が少なからず本学の応募状況に影響していると思われる。これまでは、外部から学生を受入れることとしていたが、学内においても原子力分野の講義等に学部の学生がかなり聴講している状況であり、今後は、学内から原子力システム安全工学専攻へ進学する学生にも対応していきたい。

2. 平成24年度事業年度決算(案)について

宮崎委員より、資料2に基づく説明に引き続き、滝上監事より、会計監査人及び監事による監査を実施した結果、第9期事業年度に係る業務運営は、法令等に従い適法に行われ、また、財務諸表においても適正なものとの報告があり、審議の結果、これを承認した。

3. 資金運用(案)について

宮崎委員より、資料3に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

報告事項

1. 長岡技術科学大学外部評価書について

武藤委員より、資料4に基づき、報告があった。

主な質疑応答は、以下のとおり

- 評価委員の意見概要では、長岡技術科学大学の最も根幹に関わる技学を学問として早急に体系化し、説明できる形にしていだきたいという意見があり、これは技学を核に据えるためには、本学の中で技学のコンセプトが認知され、共通認識に立った上で大学運営に当たるべきであるとの意見ではないか。
- 技学については、一昨年に中長期成長戦略を構築した際、本学のコンセプトにしようという形で取り上げさせていただき、中身も含めてかなりディスカッションしたり、いろんな教育の中に取り込んだりし始めているが、まだ十分ではないと考えている。わかりやすい形での説明も必要であり、25年度からは、本学の見える化政策の取組みとして技学の考え方、技学に基づく実績、成果が今までに何がどう出てきていたか、どのように本学が取り組んできたかを明確にしていきたいと考えている。

2. 国立大学法人における会計監査人の選任について

宮崎委員より、資料5に基づき、報告があった。

3. その他

・武藤委員より、三機関連携・協働教育改革事業によるシンポジウムの開催について、資料に基づき、開催概要等の報告があった。

・議長より、第2回国際技学カンファレンス in 長岡(6月21日～6月23日 本学にて開催)の実施状況及び文部科学省が6月20日に公表した「今後の国立大学の機能強化に向けての考え方」について報告があった。

以上